

## 倉橋惣三先生を偲びて

### 万感寸描

#### 上沢謙二

倉橋先生のことを思うと、万感胸にふさがる。そのうちの幾つかを寸描したい。

◇「幼稚園雑草」は、保育に對して、私の目を開かせてくれた。否、それ以上に、保育に對する私の覚悟をきめさせてくれた。幼児教育に對する興味と、或る構想は、ずっと前からもっていたが、いよいよその世界にはいりこもうという決心は幼稚園雑草によって具体化された。

◇先生の文章を読むと、どんな短かいものからも、きつと何か教えられるところ、得るところがある。「咳唾珠玉をなす」という言葉があるが、先生の文章は正にそれにあたると思う。

◇文章といえば、先生の書かれたものは、感想、隨筆はいうに及ばず、論文でも、学説でも、一種の趣があり、うるおいがあり、美しさがある。時には詩を讀んでいるような気持ちになる。想うに、先生は天成の詩人であつたらう。先生自身「保育者は詩を解さねばならない」というような意味のことをよくいわれた。先生の著書は勿論、先生の文章がはいっている単行本は、

私はいが求めた。目次に「倉橋惣三」という名があるものは、けつして見逃がさなかつた。相当集まつたが、惜しいことに、戦災で大部分焼いてしまつた。

◇「幼児の教育」誌に執筆される先生の文章を讀んで、興感高まるままに、屢々愚感や質問を書き送つた。時には見当ちがいな、又は失礼な言葉もあつたと思ふが、先生は必ずねんごろな御返事を下さつた。

◇戦災で疎開したのが縁となり、郷土栃木県鹿沼市で、私は幼稚園を開くことになつたが、そのことを先生に申上げると「開園の時はいつてやろう」とおっしゃつて下さつた。それが予定よりずつとおくれて、昭和二十八年四月となつた。先生はその前に足を痛められて、地方

へはお出かけにならなかつたが、特別に奥様とこいっしょにおいで下さつた。それにフレール館の小高社長が往復と御滞在三日間を附添つて、自動車を提供してくれた。その後関西へお出かけになつたのが、地方御出張の最後だつたと思う。とすれば、鹿沼行は最後から二番目だ。有難く記念すべきことと思ふ。

◇その時の御演題は「お祝い鹿沼市の樂園」というのだった。その中で、先生はこういわれた「私は上沢さん一家を保育一家といいたい。上沢さんも私と多年関係があり、奥さんも私の講義を聴き、お嬢さんは私の教え子だ」と。私はこのお言葉を忘れない。忘れないどころか、探で以て一生の箴としたい。(童話家・鹿沼市鹿沼幼稚園長)

## 桜井ウメ

長年、倉橋先生の御邸宅の隣に住んで居り、幼稚園も開園以來顧問として一方ならぬ御後援を賜りました私は御礼の意味で先生の思い出を申し上げ度い強い念にかられ筆をとりました。開園は卅二年も前の事で「家庭の延長」の様な住宅に遊戯室をつけた丈、園児も九人からでしたが先生はこんな名も無い小さな幼稚園をも少しもおろそかなさらず、十周年の大増築には母の会員を後援して日比谷公会堂で映画会を催して下さったり、廿五周年土地買取にも先に立って御力添え下さいまして現

在の様に引上げて下さいました。近年はよく幼稚園にも見えて「子供は可愛いものですね」と仰言て無心に遊ぶ子供をにこにこ見て下さいました。昨秋地元立派な子供神輿が出来ました時は大変喜ばれて、先生は子供の喜ぶお祭りの気分がお好きでした。それで御輿を中心に喜んで写真にも入って下さいました。今でも暖かい日には鳥打帽をかぶって和服にくつばきの優しい先生が裏木戸から出ていらつしやる様な気がしてなりません。先生の偉大な数々の御功績については他の方々が述べられると存じますので、もつともつと山々の事がございますが以上にしておきます。

(東京都中野区桜花幼稚園長)

## 故倉橋惣三先生を 偲びて

### 松下<sup>よ</sup>哲子

故倉橋惣三先生が幼稚園保育にお残し下さった沢山の書物は、ほんとうに貴いものがございます。ラジオで先生の御逝去の知らせを伺いました時、私は先生の御本を読んで居りました。私の机の上にはいつも先生の御本がございます。毎日の保育は申すに及ばず、新入園児を迎える時、卒業生を送る時、母の会を開く時、四季折々の保育にも先生の御本は何度となくりかえて読ませていただいたかわかりません。私共は常日頃幼児教育の場であり乍ら、ありのままの気持をそのまま言葉の上に表現する事の出来ない私共はほんとうに先生の御本こそ杖

でございます。又長い長い先生の幼児教育の御研究は我が国の幼児教育の礎である事を信ずる者でございます。最近幼児の教育について広く社会の認識のもとによりよき理解をされて日に日に幼稚園教育は進歩発展されつつあります。此の重大な時先生を失いました事はほんとうに悲しみの至りでございます。けれども私共は貴い御研究の賜物である倉橋惣三先生の残された幾多の書物を中心として、よりよき幼児教育に精進致し、日本のフレイベル先生の御遺志として永久に不滅である事を信じて止まないのでございます。倉橋惣三先生とこしへに日本の幼児教育をお守り下さい。安らげく永遠に御冥福を御祈り申し上げます。

(浜松市青葉幼稚園長)